望月久貴先生を偲ぶ

長谷川 宏士

昭和二十一年八月、東京帝国大学文学部英文学科を卒業した望月久貴先生は、その後、東京帝大文学部で助手、助教授を務め、さらに、昭和三十二年には、京都帝国大学文学部で教授に就任されました。

先生は、東京帝大文学部の創設から、卒業生の育成、研究の発展に大いに寄与され、特に、日本学の研究において、非常に重要な役割を果たしました。

望月先生の研究は、日本文学と西欧文学の比較研究、特に、江戸時代の文学とその影響に関する研究で、その成果は、日本文学史の完成に大いに寄与しました。

望月先生の研究は、特に、江戸時代の文学とその影響に関する研究で、その成果は、日本文学史の完成に大いに寄与しました。

望月先生は、その研究を通じて、日本文学の歴史的変遷を深く理解し、その重要性を説き渡すことで、その研究は、日本文学の発展に大いに寄与しました。

望月先生の研究は、特に、江戸時代の文学とその影響に関する研究で、その成果は、日本文学史の完成に大いに寄与しました。

望月先生は、その研究を通じて、日本文学の歴史的変遷を深く理解し、その重要性を説き渡すことで、その研究は、日本文学の発展に大いに寄与しました。

望月先生の研究は、特に、江戸時代の文学とその影響に関する研究で、その成果は、日本文学史の完成に大いに寄与しました。